

表1 平成30年度ダイオキシン類に係る環境調査結果（総括表）

〔単位：大気 pg-TEQ/m³
 水質 pg-TEQ/L
 底質 pg-TEQ/g
 土壌 pg-TEQ/g〕

環境媒体	調査の種類 又は地域分類 (水域群)	地点数	検体数	環境基準 超過 地点数	調査結果			環境 基準値
					平均値	最小値	最大値	
大気	全体	619 (676)	1,817 (1,901)	0 (-)	0.018 (0.018)	0.0032 (0.0029)	0.17 (0.24)	0.6
	一般環境	471 (503)	1,373 (1,420)	0 (-)	0.018 (0.018)	0.0035 (0.0029)	0.17 (0.24)	
	発生源周辺	122 (145)	356 (390)	0 (-)	0.018 (0.018)	0.0032 (0.0032)	0.15 (0.15)	
	沿道	26 (28)	88 (91)	0 (-)	0.015 (0.015)	0.0056 (0.0056)	0.056 (0.056)	
公共用 水域 水質	全体	1,431	1,839	17	0.18	0.0084	4.1	1
	河川	1,106	1,486	15	0.20	0.0088	4.1	
	湖沼	90	99	2	0.18	0.0084	1.9	
	海域	235	254	0	0.077	0.017	0.54	
公共用 水域 底質	全体	1,187	1,255	3	5.9	0.0083	430	150
	河川	903	969	3	5.1	0.0083	430	
	湖沼	83	83	0	7.9	0.21	41	
	海域	201	203	0	8.8	0.078	97	
地下水質		511	524	0	0.044	0.0072	0.36	1
土壌	合計	818	818	0	2.5	0	150	1,000
	一般環境把握調査	559	559	0	1.4	0	30	
	発生源周辺状況把握調査	259	259	0	4.7	0	150	

注1：平均値、最小値及び最大値は、各地点の年間平均値の平均値、最小値及び最大値である。

注2：毒性等量の算出には、WHO-TEF(2006)を用いている。

注3：大気については、環境省の定点調査結果及び大気汚染防止法政令市が独自に実施した調査結果を含む。
 なお、下段()内は全調査地点の数値である。

注4：公共用水域の環境基準超過地点数については、各地点の年間平均値が環境基準値を超過した地点数である。

注5：地下水質については、このほかに継続監視調査(13地点、14検体)が実施された。

注6：土壌については、簡易測定法による8地点8検体のデータは、平均値、濃度範囲の算出の対象外である。
 土壌については、このほかに継続モニタリング調査(5区域5地点、5検体)が実施された。